



令和8年度前期学校評価アンケートについて

令和8年度 前期学評価アンケートにご協力いただき、ありがとうございました。

7月に実施した前期学校評価アンケートの結果と分析をお知らせします。結果を今後の教育活動に生かしてまいります。

◇実施期間 令和8年7月1日～7月15日

◇対象者 白河総合支援学校生徒・保護者・教職員

◇方法 ・アンケートフォーム（Forms）およびアンケート用紙にて回答
・各項目の「適合度」を4段階で評価
・「そう思う」「大体そう思う」を「肯定的回答」とし、「あまりそう思わない」「そう思わない」を「否定的回答」として分析

◇回答率 生徒 98%（102/104） 保護者 95%（99/104） 教職員100%

◇分析結果 ・百分率で数値を表記
・【確かな学力】【豊かな心】【健やかな体】【独自の項目】について、項目別に対象者別の回答を比較分析
・【服務】については、教職員のための項目として分析
・肯定的回答85%以下、否定的回答15%以上の項目は で表示
・昨年度前期との比較で、肯定的回答が5%以上の向上が見られた項目は 、肯定的回答が5%以上の低下が見られた項目は で表示

【確かな学力】

この項目では、生徒が自分の目標を理解し、その目標に向かって学習に取り組んでいるか、また、達成度について評価できているか、目標に近づく姿が見られるかについて尋ねています。

分野	教職員	肯定的回答	前年度	否定的回答	前年度	保護者	肯定的回答	前年度	否定的回答	前年度	生徒	肯定的回答	前年度	否定的回答	前年度
確かな学力	1 個別の包括支援プランに基づいて計画的な指導や支援を行っている	87%	11%	13%	11%	子どもの目標や学習計画に基づき計画的な指導や支援がされている	97%	1%	3%	1%	先生は「何のために勉強するか」をわかりやすく教えてくれる	99%	4%	1%	4%
	2 生徒や保護者に短期目標と評価、実習の目標と評価を伝えている	96%	4%	4%	4%	短期目標や評価について、学校は保護者に適切に伝えている	95%	3%	5%	3%	今、現在の自分の目標がわかっている	96%	3%	4%	3%
	3 生徒が自己目標に一生懸命に取り組める活動を創出している	93%	4%	7%	4%	子どもは目標に向かって学習に取り組んでいる	96%	5%	4%	5%	目標に向かって学習に取り組んでいる	96%	0%	4%	0%
	4 生徒は満足感や達成感を持ち、専門科（地域協働）の学習に取り組んでいる	100%	0%	0%	0%	子どもは専門科（地域協働）の授業に満足感や達成感を感じている	99%	4%	1%	4%	専門科（地域協働）の授業で「できた」「うれしかった」ことがある	96%	4%	4%	4%
	5 生徒は満足感や達成感を持ち、教科の学習に取り組んでいる	96%	0%	4%	0%	子どもは教科の授業に満足感や達成感を感じている	93%	2%	7%	2%	教科の授業で「できた」「うれしかった」ことがある	92%	3%	8%	3%
	6 生徒は満足感や達成感を持ち、職場等実習に取り組んでいる	100%	2%	0%	2%	子どもは職場等の実習に満足感や達成感を感じている	98%	6%	2%	4%	職場実習で「できた」「うれしかった」ことがある	91%	5%	7%	3%
	7 生徒の働く意欲や働くために必要な姿勢や態度を育むことができる	98%	0%	2%	0%	子どもは働く意欲や働くために必要な姿勢や態度が育ってきた	91%	5%	9%	5%	一生懸命働くという気持ちや職場で必要な態度が身につけている	95%	1%	5%	1%
	8 生徒の学習の結果や努力・達成度を評価し、授業改善・指導法の改善に活かしている	98%	0%	2%	0%	子どもの努力や達成度が評価されている	98%	0%	2%	0%	先生は、学習の成果（できるようになったこと等）を伝えてくれる	97%	1%	3%	1%

すべての質問項目において、肯定的回答が87%以上となりました。また、保護者・生徒を対象とした質問項目では、すべての項目で90%台の肯定的回答が得られました。昨年度前期のアンケート結果と比較すると、保護者の3項目において5%以上の向上が見られました。一方で、生徒の『職場実習で「できた」「うれしかった」ことがある』の項目では、昨年度と比べて肯定的回答が5%低下しました。また、教職員の『個別の包括支援プランに基づいて計画的な指導や支援を行っている』の項目では、昨年度より10%以上低い結果となりました。

今回の学校評価アンケートの結果から、本校が大切にしてきた「何のために学ぶのか」という目的意識を生徒が持ち、自らの目標や課題を理解しながら主体的に学習に取り組む姿勢の育成が図ることができていると考えま

す。今後も、伝え方や提示方法、教材選定などを工夫しながら授業づくりに取り組み、生徒一人一人が「できたこと」や「頑張れたこと」を実感できるよう努めてまいります。また、学習のねらいや課題を具体的に示すことで、生徒の主体的な学びを支える学習環境の充実を図っていきます。さらに、生徒が自ら学習目標を設定し、自己決定を通して学びに向かう姿勢を育む取組を継続することで、「自分は何をしたいのか」「なぜそれをするのか」という問いへの自覚を深め、より主体的な学びにつなげていきたいと考えます。

前年度と比較して５％低下した『職場実習で「できた」「うれしかった」ことがある』の項目については、学年別の集計結果から、１年生の数値が他学年に比べて１５％程度低いことが分かりました。このことから、１年生が初めて取り組む“インターンシップ実習”の充実が課題であると考えられます。

初めての实習で不安や緊張を抱えながらも、仲間と励まし合いながら実習をやり遂げる経験を積むことや、職業学科の特色である“デュアルシステム”を活用し、実際の働く場での経験と学校での学びを結び付けながらPDCAサイクルによって学びを深めことを体感することが重要です。こうした取組を通して、充実した職場実習の実現を図るとともに、生徒が将来の目標を具体的に描き、その実現に向けて必要な力を主体的に身に付けていく姿の育成につなげていきたいと考えます。

また、教職員の『個別の包括支援プランに基づいて計画的な指導や支援を行っている』の項目については、昨年度より１０％以上低い結果となりました。今年度は、個別の包括支援プランの評価方法や記載内容の見直しを行ったことが、この結果に影響していると考えられます。本校が大切にしている“主体的な学び”を支える支援ツールとなるよう、昨年度から検討を重ね、今年度より内容を変更しました。しかし、変更の目的や意図について、教職員間で十分な共通理解が図られていなかったことも要因の一つとして考えられます。今後は、「個別の包括支援プラン」が生徒一人一人の学びや成長を支える有効なツールとなるよう、教職員間での共通理解をより一層深めるとともに、本人・保護者と連携しながら、よりよい支援プランの作成に努めてまいります。

【豊かな心】

この項目では、自己肯定感や自己有用感にかかわる内容について尋ねています。

分野	教職員	肯定的 回答	前年 率比	否定的 回答	前年 率比	保護者	肯定的 回答	前年 率比	否定的 回答	前年 率比	生徒	肯定的 回答	前年 率比	否定的 回答	前年 率比	
豊かな心	9	生徒のよいところや得意なところを伸ばすことを意識して指導している	96%	-4%	4%	4%	子どもには良いところや得意なことがある	100%	3%	0%	-3%	自分の好きなどところや得意なことをよく知っている	93%	2%	7%	-2%
	10	生徒の自己有用感を高めるため、「役に立ちたい」という思いを促すような活動を用意している	98%	2%	2%	-2%	子どもには「誰かの役に立っている」と実感できる学習が準備されている	97%	7%	3%	-7%	自分はだれかの役に立っていると思う	77%	-1%	23%	1%
	11	生徒の自己肯定感を高めるため、生徒の人権を尊重した言葉かけや指導・支援を行っている	96%	0%	4%	0%	教職員は子どもの生活年齢や発達段階に応じた適切な言葉かけや指導をしている	94%	-2%	6%	2%	先生はわかりやすく丁寧な言葉づかいをしてくれ、自分のことをわかってくれる	97%	7%	3%	-7%
	12	生徒が友達や仲間を大切に、お互い認め合いながら、協力し合えるよう指導や支援をしている	100%	4%	0%	-4%	子どもは友達や仲間を大切に、お互い認め合いながら、協力している	99%	7%	1%	-7%	友達や仲間を大切に、お互い認め合いながら、協力している	100%	8%	0%	-8%
	13	生徒に自分から積極的に挨拶するよう指導や支援をしている	100%	0%	0%	0%	子どもは自分から積極的に挨拶している	90%	7%	10%	-7%	自分から元気づけ挨拶ができる	95%	14%	5%	-14%
	14	生徒に学校の決まりや約束を守って学校生活を送るよう指導・支援している	100%	2%	0%	-2%	子どもは学校の決まりや約束を守って学校生活を送っている	91%	-1%	9%	1%	学校のきまりや約束を守っている	94%	5%	6%	-5%
	15	生徒に家庭内で決まった役割を担うよう促している	83%	-13%	17%	13%	子どもには家庭で決まった役割があり、実行している	78%	-4%	22%	4%	家庭で決まった役割（例えば、お手伝い）があり、実行している	89%	-3%	11%	3%
	16	全教職員が学校いじめの防止等基本方針の内容を理解し、組織的対応に努めている	100%	2%	0%	-2%										
	17	学校は、いじめ対策委員会のメンバーを生徒に紹介している	87%	14%	13%	-14%										
	18	生徒・保護者の訴え（アンケート結果含む）や相談内容を共有している	98%	0%	2%	0%										
	19	保護者や学校運営協議会等に、学校いじめの防止等基本方針や学校の取組を説明・周知している	100%	7%	0%	-7%										

各質問項目において、おおむね肯定的回答が高くなっています。５％以上、上昇した項目も多数見られます。一方で、生徒の『自分はだれかの役に立っていると思う』の質問項目の肯定的回答が７７％と低い数値となり、昨年度は上昇傾向が見られましたが今年度は１％の減少となりました。また、保護者の『子どもには家庭で決まった役割があり、実行している』、教職員の『生徒に家庭内で決まった役割を担うよう促している』の項目の肯定的回答は、８３％以下とやや低い数値となりました。

８５％以下の低い数値を表した項目は、いずれも“自己有用感”に関わる項目です。これらの項目は、過去数

年間にわたり低い傾向が続いており、今年度も自己有用感の育成が継続的な課題であることが示されました。自己有用感とは、「自分は誰かの役に立っている」「自分の存在が周囲に認められている」と感じる感情です。自己肯定感が「ありのままの自分を肯定する感覚」であるのに対し、自己有用感「他者との関わりの中で、自分の価値を実感する感覚」を指します。本校では、地域協働活動やグループワークなど、生徒が他者と関わりながら役割を果たす機会を意図的に設けることで、自己有用感の育成に取り組んできました。今後も、生徒一人ひとりの思いに寄り添いながら、目標や役割を自ら決める機会を大切に、行動や成果だけでなく、その過程における努力を認める姿勢を継続していきます。結果に関わらず、生徒自身の姿を肯定的に捉えることで、自己有用感の向上を目指します。また、日常的なコミュニケーションを通じて、生徒の個性や努力を認める関わりを重ねることで、生徒が自信を持って主体的かつ積極的に活動できる学習環境の整備に努めてまいります。

昨年度まで、80%台のやや低い数値を示していた「あいさつ」に関する項目では、生徒・保護者ともに、肯定的回答が90%台となりました。あいさつは、コミュニケーションの基本であり、社会人として身に付けておくべき大切な力の一つです。相手に伝わるあいさつを自ら行うことで、円滑な人間関係や信頼関係の構築につながります。昨年度より、生徒会が中心となって「あいさつ運動」を活発に行い、その中であいさつの大切さを啓発する取組が行われました。また、本校では、挨拶を通じて心地よい人間関係を築くことを目指し、日頃から挨拶を交わし合う雰囲気づくりに取り組んでいます。今後も学校生活や職場実習を通してあいさつの習慣化を図り、社会の中で主体的に人と関わるができる生徒の育成を目指していきます。

【健やかな体】

この項目では、健康に関することについて尋ねています。

分野		教職員					保護者					生徒			
		肯定的 回答	前回 増減	肯定的 回答	前回 増減		肯定的 回答	前回 増減	肯定的 回答	前回 増減		肯定的 回答	前回 増減	肯定的 回答	前回 増減
健康 や かな 体	20 生徒に適切な食生活を送れるように指導している	89%	-2%	11%	2%	子どもは朝ごはんをきちんと食べている	89%	1%	11%	-1%	朝ごはんをきちんと食べている	88%	1%	12%	-1%
	21 生徒に衛生に関する指導・支援を行なっている	100%	2%	0%	-2%	子どもは定期的に洗濯しようといわれている	89%	4%	11%	-4%	清潔にすることを心がけている（例えば、毎日の入浴や着替え、汗をこまめに拭くなど）	97%	-1%	3%	1%
	22 校と生について、生徒が正しく理解し、適切な行動が取れるように指導・支援を行っている	100%	2%	2%	0%	子どもは食と生の理解を深め、自分の身体を大切にしようとしている	89%	6%	11%	-6%	食と生について学習し、自分の身体を大切にしながら生活している	99%	2%	1%	-2%
	23 休日等を実施されている各種スポーツ、文化的催しに参加するように生徒に促している	83%	0%	17%	0%	子どもは休日にリフレッシュできる活動をしている	91%	0%	9%	0%	休日は趣味やスポーツ、サークル活動などに取り組んでいる	84%	7%	16%	-7%

各質問項目において、おおむね肯定的な回答が高い結果となりました。教職員・生徒の『休日の過ごし方』に関する項目では、肯定的回答が85%を下回りましたが、生徒の肯定的回答は昨年度より7%上昇しました。また、過去数年間にわたり肯定的回答が低い傾向にあった『朝食』に関する項目では、90%に迫る肯定的回答を得ることができました。

食生活に関しては、“働く生活”を支える重要な要素として、外部講師による講義や、さまざまな場面で食育の視点を取り入れた指導を継続してきた成果が表れているものと考えられます。特に、朝食は一日の始まりにおける大切なスイッチとなり、栄養補給だけでなく脳や身体をしっかりと目覚めさせる役割を果たします。こうした“朝ごはん”の重要性についての啓発が、生徒の意識の向上につながっていると考えられます。今後も、生徒が食事の大切さに気付き、健康的な生活習慣を身に付けられるよう、一人ひとりの実態に寄り添いながら、健やかな成長を支える教育活動を推進してまいります。

休日の過ごし方を充実させ、ワーク・ライフ・バランスを整えることは、学校目標に掲げる“豊かで質の高い生活の実現”に向けて重要なことです。自分なりの充実した休日の過ごし方を見つけることは、働くための意欲や活力につながるものと考えられます。今後も、生徒が趣味の幅を広げたり、好きなことに打ち込んだりしながら、余暇を有意義に過ごせるよう、自己理解を深める学習やICTを活用した情報収集の方法などを取り入れ、多様なことに挑戦する意欲を育てていきます。生徒一人ひとりが自分らしい生活スタイルを築くことができるよう、学校として継続的に支援してまいります。

【独自の項目】

この項目では、企業との連携、地域との協働を図りながら進めている学習について、および、情報モラルに関することについて尋ねています。

分野	教職員	肯定的 回答	前年 率比	否定的 回答	前年 率比	保護者	肯定的 回答	前年 率比	否定的 回答	前年 率比	生徒	肯定的 回答	前年 率比	否定的 回答	前年 率比
独自の項目	24 企業との連携・協働による学習環境が設定できている	100%	0%	0%	0%	企業との連携・協働による学習環境が設定できている	95%	2%	5%	-2%	企業の協力があり、職場実習などができていることに感謝している	99%	3%	1%	-3%
	25 地域との連携・協働による学習環境が設定できている	100%	2%	0%	-2%	地域との連携・協働による学習環境が設定できている	97%	3%	3%	-3%	地域の協力があり、地域との活動ができていることに感謝している	95%	3%	5%	-3%
	26 生徒、保護者、地域、企業等に本校の教育の趣旨や目的を理解できるように伝えている	100%	0%	0%	0%	保護者として、学校の教育の趣旨や目的を理解している	99%	4%	1%	-4%	地域や企業等、学校外で学び経験を通して、校内でもより一層懸命に学習することができている	96%	-1%	4%	1%
	27 情報モラルについての指導を積極的に行っている	98%	2%	2%	-2%	子どもはルールやマナーを守って情報機器やSNSを使用している	83%	-4%	17%	4%	読み取りルール、マナーを守って情報機器（スマートフォンやタブレット）やSNSを使用している	95%	0%	5%	0%

1項目を除き、肯定的回答が95%を超える非常に高い評価を得ることができました。企業との連携や地域との協働を通して進めている学習活動について、高く評価していただいているものと考えられます。

今後も、生徒が主体的に活動できる幅広い学びの場を、企業や地域と連携しながら積極的に設定していきます。生徒がさまざまな人・場所・ものと関わる中で、いきいきと学べる環境づくりを進めることは、学習意欲の向上にもつながるものと考えられます。また、多様な経験を重ねることで、生徒が自分自身への理解を深め、「なりたい自分」を思い描きながら目標を持って学習や活動に取り組むことができます。その過程で学ぶことへのやりがいや使命感を育み、自ら考え行動する力の向上につなげていきたいと考えています。

保護者の『子どもはルールやマナーを守って情報機器やSNSを使用している』の項目については、肯定的回答が83%となり、昨年度比で4%減少する結果となりました。情報機器やSNSの利用に関する課題は、情報化が進む現代社会において広く見られるものでもあります。情報があふれる社会の中で、生徒が正しい情報を選び取り、適切に活用する力を身に付けることは重要です。また、自ら情報リテラシーを高めるとともに、個人情報を守るための情報セキュリティに関する知識や判断力を身に付けていくことも求められています。今後も、外部講師による講話や授業をはじめ、さまざまな角度からの取組を通して、生徒が正しい知識を身に付け、安全かつ適切に情報機器やSNSを活用できる力を継続的に育てていきたいと考えています。

【サービスの項目】

この項目は、教職員のための項目です。働き方に関することについて尋ねています。

分野	教職員	肯定的 回答	前年 率比	否定的 回答	前年 率比
業務	28 報告・連絡・相談を意識して行い、情報の共有に努めている	98%	2%	2%	-2%
	29 業務や会議の精選を図ることにより、勤務時間の縮減を図っている	85%	-4%	15%	4%
	30 職務の効率的な遂行を心がけている	100%	4%	0%	-4%

『業務や会議の精選を図ることにより、勤務時間の縮減を図っている』の項目で、肯定的回答が昨年度比で4%減少し、85%となりました。令和6年度には93%まで上昇したことから、これまで進めてきた働き方改革の取組は一定の成果を上げてきたと考えられます。しかし、その後は2年連続で減少しており、教職員の負担感や業務改善に対する実感に変化が生じていることがうかがえます。本校では、これまでも会議の効率化や業務の見直しなどを進め、勤務時間の縮減に取り組んできました。一方で、教育活動の充実や生徒支援の多様化に伴い、教職員に求められる役割は年々広がっています。こうした状況の中で、単に勤務時間を減らすだけでなく、業務の質や働きがいとのバランスを意識した取組がより重要になっていると考えられます。

今後は、業務内容や校務分掌の在り方を改めて見直すとともに、ICTの活用や業務の効率化をさらに進めながら、教職員一人ひとりが安心して働くことのできる環境づくりに努めてまいります。また、“働きやすさ”と“働きがい”の両立を目指し、教職員のウェルビーイングの向上を図ることで、教育の質の向上につなげていきたいと考えています。